

経営判断における認知バイアスとその克服手法

—デザイン思考を活用した BCP 策定の観点から—

氏 名 江頭 杏

指導教員 松田 憲

要 旨

日本の中小企業・小規模事業者における BCP（事業継続計画）策定率は依然として低く、その要因として中小企業白書や各種実態調査では、情報・時間・人材の不足や専門知識・ノウハウの欠如といった外在的制約が指摘されてきた。一方で、必要性を認識しながらも平常時の業務を優先して BCP 策定を先送りにする傾向の背後には、正常性バイアスや現状維持バイアス、時間割引などの認知バイアスが作用している可能性がある。

本研究は、北九州市の中小企業経営者および意思決定に関わる人々を対象に、リスク認識が策定意図に与える影響を検討し、デザイン思考が認知バイアスとどう関連するかを解明することを目的とした。

アンケート調査に基づき、共分散構造分析を用いて各要素の構造的関係を検証した。さらに自由記述に対し、共起ネットワーク分析と LDA によるトピックモデルを適用し、未策定理由と策定動機の潜在構造を探索した。

分析の結果、認知バイアスが強い企業ほど BCP 策定に消極的だが、共感や試行錯誤を伴うデザイン思考の実践は「自分ごと化」と行動開始や目標保持に関わる認知制御機能（実行機能）を高め、そのことを通じて認知バイアスの影響を BCP 策定を促進する可能性が示された。テキストマイニングでは、未策定理由が「リソース不足」「認知欠如」に集約される一方、策定済企業では「地域・生産基盤の防衛」「顧客信頼」「震災教訓と公的支援」が主要トピックとして抽出された。

本知見は、BCP 普及には外在的制約の解消だけでなく、経営者や意思決定に関わる人々の心理的傾向を踏まえたアプローチが不可欠であることを示唆する。さらに、デザイン思考による思考転換や、DX による可視化・簡素化を通じた自分ごと化の促進が、BCP 普及および地域ブランド・若者定着戦略において有効な施策となり得る。